

5.【事例】 専門職等による地域アセスメント

1 専門職等による地域アセスメント

廿日市市では、地域と日常的にかかわりを持ち、市民主体の地域福祉活動を支援する行政職員・社会福祉協議会職員（以下「職員」といいます。）などが、地区とのかかわりを通じて把握している日々の「事実」や「気づき」など、支援の記録を継続して行い、地域の現状を診断する素材の把握と地域福祉カルテへの整理について、3つの地区で試行的に実施しています。

【モデル事業の実施状況】 ※記録シートは次ページを参照

実施地区	浅原地区 (佐伯地域)	平良地区 (廿日市地域)	原地区 (廿日市地域)
参加した職員	地域支援員	市民センター職員	社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
実施内容	○ 日常業務のなかで市民、地域自治組織、ボランティアグループ、民生委員など地域福祉活動にかかわる市民との対話や行った支援の内容を記録することを継続した。 ○ 3つの地区の職員が集まる連絡会議を概ね月1回開催し、記録シートの点検や改善の検討を行った。		

2 モデル事業の効果

市民主体の地域福祉活動を支援する職員は、担当地区内のさまざまな「地域」や、民生委員、地域自治組織の役員などさまざまな「市民」に対し、日常的に情報提供や相談対応などの支援を行っています。これらの支援を通じて把握された地域や市民の現状は、記録することにより、後で総括して整理することができ、地域福祉カルテの内容に反映することができるようになりました。

また、職員が行っている地域福祉活動の支援がどのように蓄積されているのか（例えば、1ヶ月前に相談された事業の企画について、今どう進んでいるのか、など）が、記録として目に見えるようになりました。これらは、職員が行った支援を「見える化」する方法としてわかりやすいものです。

3 今後、期待される展開

今後は、市民主体の地域福祉活動を支援する職員が支援の記録を継続し、地域の現状が「見える化」されることで、より課題に合わせた一貫した支援や予防的な事業につながることを期待されます。また、職員による支援の有効性や改善点など、専門的な支援の評価もこの記録を通じて行うことも期待できるでしょう。

【モデル事業で活用した記録シート】

年月日	分野	内 容		気づき・感想	対応	備考
		情報の入手元(人、場面など)	具体的な内容			
2018.4.21	安心安全	〇〇会長、町内会会議	災害時に、要支援者や薬の状態などが分からない。	アンケートなどで情報収集してみるか？		
2018.4	医療・介護	〇〇会長、市民センター	〇〇の奥さんが認知症のよう、そっとしておこ	認知症サポーター研修や勉強会などしていく予定。	認知症サポーター研修や勉強会などしていく。	2018.8 ヤクルト出前講座「認知症予防教室」実施 2018.10 広報誌にて認知症サポーターについて掲載。
2018.6.8	こども・子育て	〇〇さん(息子)、コミュニティ会議	子供を遊ばせる所がない、同じ年代の子供がいない。	少子化もあるが、公園など子供を遊ばせるスペースがない。遊び相手も少ない		
2018.6.18	移動	サロン参加者、〇〇集会所	市民センターには遠くて行けない。	月2回は少ない？百歳体操は集会所でもできたら良いかも。		
2018.7.3	医療・介護	〇〇〇〇さん、市民センター	この地区には風呂の事故で亡くなる人が多い。	〇〇だよりにお風呂の危険など載せてみる？	39℃のお湯で、水一杯飲んでから、脱衣所も暖かくしてから入るようにと、〇〇さんより皆様へアドバイスあり。TV情報の共有。	
2018.7.9	その他(助け合い)	〇〇さん、〇〇さん家	豪雨により、〇〇さんの家の庭の一部が崩れた。〇〇さん本人は家におらず、田んぼに泥が入りそうな状態だったため、近所の方がブルーシートをかけて被害が拡大しないよう対処。	近所で助け合いの意識がある人もいる。		
2018.7.10	その他(仕事)	〇〇さん、ご本人宅	今後農家を継いでいく人がいない。	担い手不足の解消についても今後考えていく必要がある。	農家さん紹介のフライヤーを作成し、外部へも発信予定。	
2018.7.11	移動		災害時に避難するための移動手段がない。市民センターは遠い。	災害時の避難場所・近隣住民と乗り合わせでの移動などシステムが必要？避難場所は検討しなおす必要がある。		
2018.7.18	地域活動	〇〇地区	地域のイベントに認知症の人は行きづらい。参加者も若い人(60代)もいて、その人たちと同じことができないので、劣等感を感じて嫌になって、行かなくなった人がいる。	運営側が認知症の方への声の掛け方を工夫・学ぶ必要がある。サロン以外で人との交流があるならそれでも良いかも。		2018.10 広報誌にて認知症サポーターについて掲載。
2018.8.10	買い物	〇〇さん、ご本人宅	生協が楽しみ。このへんは生協使つとつての人が多いよ。	独居の高齢者は利用者が多いのかも。今後、見守りにつなげることができるとよい。		
2018.8.10	医療・介護	〇〇さん、ご本人宅	介護認定はとらん。とらんほうが元気でおれる。	今は必要性は低めだが、今後継続して見守り予定。	週に一回程度会ってお話している。	一人暮らし、高齢女性、週に一回娘さんが帰ってきている。家事や掃き掃除程度の庭仕事は可能。足腰が悪いことは心配。
2018.9.27	その他(仕事)	〇〇さん、ご本人宅	仕事がないから、子供たちが地域から離れていく。	就職の課題は多そう。		
2018.9.27	地域活動	〇〇さん、市民センター	車もネットもあるので現状には特に不満はないけど、未来は不安。若者が頑張らないといけないけど、子育てでそれどころじゃない。	昨年、ワールドカフェ開いたが、特に変わりはないので、内容・やり方を考え直さないといいかないかも。キーパーソン探す。	若者の動きをどう作るかが課題。ワールドカフェなどやってみるか話し合う。	
2018.9.27	こども・子育て	〇〇さん、市民センター	塾がないのはしんどい。	ニーズ・運営資金の問題を含め検討していく必要がある。	今後、オンラインを使った塾など提案してみる予定。	
2018.10.15	移動	〇〇地区にて。民生委員との訪問時。	免許を返したので、ちょっと出かけるのも面倒くさくなった。	移動の課題は多い。		
2018.11.6	移動	〇〇さん、コミュニティ会議時	将来的にコミュニティの事業の一つとして、移動の補助(車で連れて行くとか)できたらいい。	システムは取り入れることでも、担い手がいるかが課題かも。	事例を調べる。	